

## ★新型コロナとのたたかい(討議用メモ) = 吉田万三

首題について吉田万三代表理事から4月17日に事務局に討議用資料が提出されました。日にちが経過し、すでに各方面で討議や研究がすすんでいます、ご本人の了解を得たので、紹介します。

4月7日に、新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が出され、外出自粛など日本中が大変な状態になっている。

### ① 今後の見通しについて

7~8割の人が感染して、自力で抗体をつくり免疫を獲得すると、感染拡大は収束に向かうと言われている。免疫を獲得するためには、自力で感染後に回復するか、ワクチンの接種しかない。新型コロナウイルスへのワクチンの開発は急ピッチで進められているけれど、1~2年かかると言われている。したがって、問題はこの1~2年をどう乗り越えるか、である。

### ② 徹底的な検査の実施とそれに連動した隔離等の体制整備

そのために必要なことは、(1)なるべく感染しないようにすること、(2)早めに検査をすすめトリアージ(重症度の振り分け)を実施して、感染者を隔離することである。

感染すると2割程度の人には重症化するとされているので、なるべく感染しないように外出を控えたりすることは意味のあることである。しかしすでに市中感染は広がっているので、いつ誰が感染してもおかしくない状況です。発表されている日本の感染者数が少ないのは、そもそも検査の数を抑えているからで、本当は発表の10倍くらいいるのではないかとされている。

それを前提に、早めの検査により無症状の感染者を隔離し無自覚のまま他人に感染させないようにすること、軽症の感染者は同様に隔離して、一定の割合で急激な重篤化する例もあるので、管理下におくこと。

### ③ クラスタ対策(モグラ叩き方式)は限界

感染拡大の初期には意味のある対策でも、現時点では効果の追いつかないものになっています。頭を出すモグラが多すぎて、叩く人の手が足りなくなっているのが現状です。

### ④ 対策の遅れの責任は重大

昨年12月には武漢での感染爆発の情報やその後クルーズ船寄港問題があり、本年1月下旬には政府の対策会議を立ち上げたが、緊張感のない状態で、欠席

して新年会に行く大臣がいたり、安倍首相も 10 分の挨拶で退席し、その後お友達と 3 時間会食などという有様だった。初期の段階で十分な情報もなかったこともあり、多少大目に見たとしても、その後の動きの悪さ・遅さは目に余るものがある。

WHOは「検査！検査！検査！」と繰り返し強調し、韓国・台湾・マレーシア・シンガポールなどで効果が実証されつつあった「東アジア型」の対策が急がれていたにもかかわらず、オリンピックをどうするのかとか、小池都知事は「やるからには完全実施だ」と言っている、とかがマスコミをにぎわしていた。

その後、準備期間のないままでの突然の学校休校要請を出したり、3月5日には全くタイミングの遅れている中国・韓国からの渡航制限を始めて、何故感染者の増加傾向のアメリカや欧州を対象にしないのか、と言われるような泥縄対策を続け、オリンピック延期が決まった途端に、急に外出自粛が強調されはじめ、今までまったく影の薄かった小池都知事はやたらとテレビに出てきて、「3密」だとか「都市のロックダウン」だとか言い出した。今まで何していたのか、しかも感染症拡大のさなかに公的医療の拠点となるべき都立病院を独立法人化(完全民営化への第一歩)を進めていることなどは、まるで自分は関係ないような顔をしている。あたかも安倍首相とたたかっているような演出をしているが、50 歩対 100 歩のたたかいする前に、全力で検査体制をつくれと言いたい。

⑤ 事態の本質を理解し状況の変化に的確に対応できるリーダーシップが必要

無能なリーダーは本当の国難には何の役にも立たないことが、多くの国民の目に明らかになりつつあります。どのようなリーダーを選ぶのかが私たちに問われているのです。

⑥ 100 年に一度の疫病の世界的大流行という認識

100 年前にはスペイン風邪の世界的大流行があり、多数の死者が出て、それで第 1 次世界大戦が終わったとも言われている。今回もそれに匹敵する、もしくはそれ以上のパンデミック(世界的大流行)である。私もオリンピックは開催できればいいとは思っているが、私たちは、4 年に一度のオリンピックどころではない100年に一度の大災害に現在遭遇しているという認識が必要である。

⑦ 市民社会の力(民主主義の力)が試されている

100 年前にもパンデミックはあったのだが、100 年前の世界は、多くの植民地が存在し、女性には参政権も無かったような時代だった。ロシア革命もその頃である。ということは、今回のパンデミックは、未成熟を抱えつつそれなりに民主主義が定着し、市民社会が成熟しつつある時代がはじめて経験するパンデミックといえる。

私たち自身の自覚的かつ自発的な団結や協力の能力も問われている。このこと

を忘れて、無能なリーダーを批判しているだけでは、発達した情報技術等を使ったより強権的な独裁者を生み出す危険すらある。

#### ⑧ 当面の対策

最初に述べたように、当面は感染者を増やさないように外出や密集の抑制に努めることだが、感染予防のために店舗等への自粛を要請するのであれば、経済的な補償は不可欠である。世の中の大多数は程度の差はあれ、仕事をしないと収入が無くなり飯が食えなくなるからである。

とは言え1～2年にわたるこれまでとは違う生活というのは、それなりに長い。緊急事態の状態からどう離脱していくのかは、慎重な判断が求められるが、持久戦の中で緊張状態を延々と続けることには無理がある。一挙にコロナウィルスに打ち勝つことは無理なのだから、1～2年の(場合によっては3～4年の)みんなに見えるような目標を示して、ゆるやかに経済活動をはじめ生活全般を元に戻していくこと。

最終のゴールは、ウィルスを凶悪化させず弱毒化させて共存していくという状態である。ウィルスだって人間が全員死んだら、自分も生きていけない。もっともウィルスは生物ではないので死んだりはしない。薄い油脂に覆われた蛋白質(DNA)なので、石鹼や消毒液で壊すことはできるものです。

#### ⑨ さらにその先に経済的大変動(世界大恐慌)が待っている

現在世界中で経済活動は停滞し軒並みGDPは下落。失業率は軒並み急増しています。この大流行が終息しても、世界経済は大きなダメージを受けた状態になります。大恐慌の被害がどの程度でどのような姿になるのかは、世界各国の人々がどのようなリーダーを選び、どのような政府をつくるのかによっても変わるでしょう。日本もかなり厳しい状況になると考えておかななくてはなりません。

#### ⑩ 時代は変わる、「命の安全保障」が政治の基軸に

このパンデミックに、新自由主義はまったく戦うことはできませんでした。ミサイルや核兵器もまるで無力だったのです。この事実を見た人々がいること、これだけ多数の死者を出し、多くの人々が命の危機を集団的に経験したことは、次の時代の在り方を選択するうえでの基準になるはずです。

私は次の時代は、「命の安全保障」が政治の基軸になるべきと考えます。判りやすく言うと、金儲けしたい人は今まで通り大いに活躍してもらっていいけれど、命にかかわる領域は金儲けの対象にしてはいけない、という原則です。具体的には、水・食料・空気、医療・介護、教育などの領域があげられると思います。

これまでの政治・経済の体制は限界がきています。新しい政治・経済の体制をつ

くらなければならない時を迎えているのです。

以上